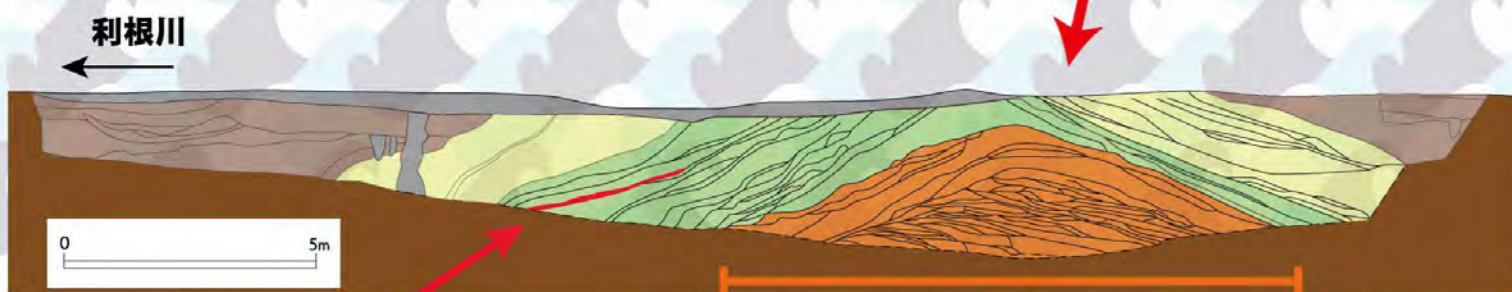


調査区⑥ 横断面図



天明3年(1783)の
浅間山噴火の際に降
り注いだ火山灰の層

16世紀末～17世紀初頭
頃の堤防範囲か

18世紀頃の堤防範囲か

19世紀頃以降の堤防範囲か

横断面の調査では中心が古い時期で、外側に広がるにしたがって新しくなる状況が確認できました。この横断面からは、堤防の芯の部分の土は水平に盛られていたのに対して、拡幅工事で盛られた土は斜めに盛られている状況(上の断面図参照)が分かりました。

また、古い時期の盛土は細かい土の単位で盛られるのに対し、新しい時期になるにつれて粗い土が単位となる傾向にあります。



調査区⑥ 東壁写真(南から)

加須市 これ心安心! 洪水と堤防の巻

きゅう と ね がわ てい ぼう あと

旧利根川堤防跡 (第3次)

公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団では、首都圏氾濫区域堤防強化対策工事に先立ち、加須市大越地区で「旧利根川堤防跡」の発掘調査を実施しています。発掘調査は今年度で3年目になります。

これまでの調査では、堤防の芯に盛られた材料が場所によって「土」であったり「砂」であったりするなど、同じ堤防であっても内部の様子が異なっていることが明らかになりました。

今回の調査では、初期の堤防は、一部に砂を芯としながら連続的に築造されたことが明らかになりました。この成果は、今までに堤防の調査事例がなかったことから、大変貴重な成果となりました。

また、この土地に堤防が築かれるキッカケになったと思われる洪水の痕跡と、それ以前のこの土地の様子も明らかになりましたので、あわせてご覧ください。



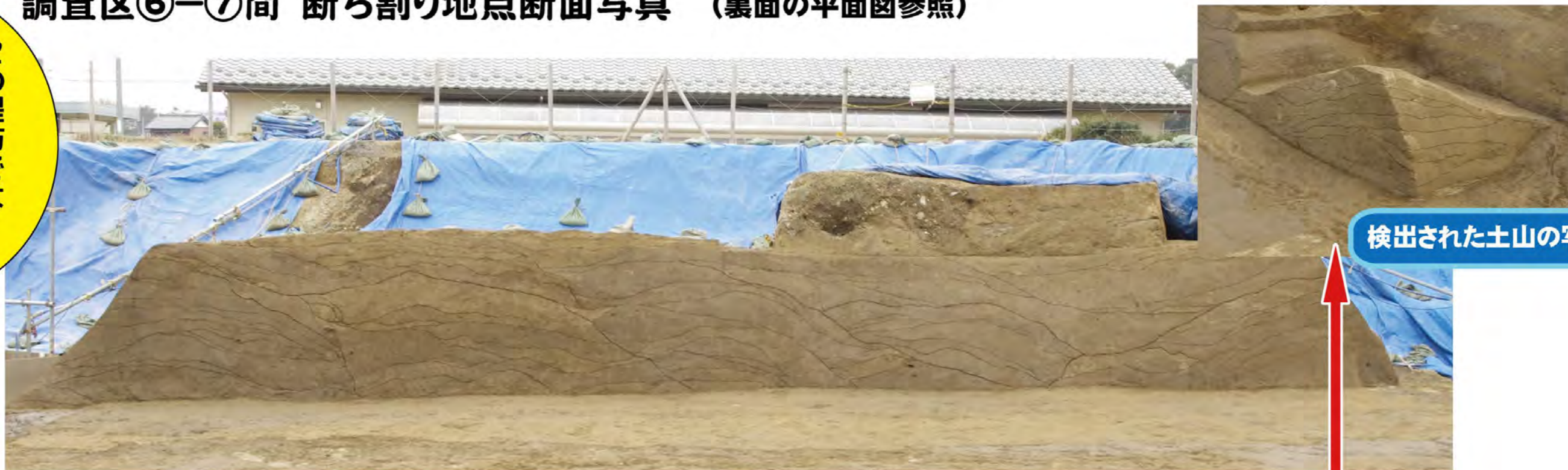
調査区遠景(南西方向より撮影)

■ : 平成27年度・平成28年度調査地点
■ : 平成26年度・平成27年度調査地点

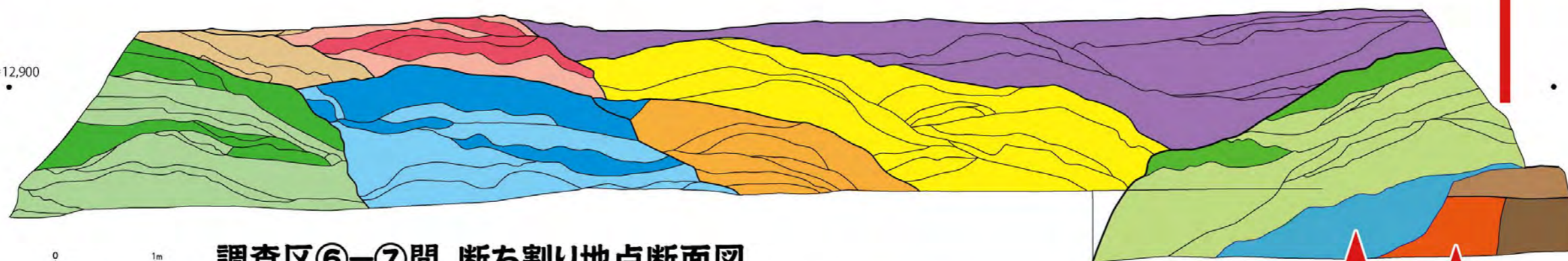
主催 : 公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
共催 : 埼玉県教育委員会・加須市教育委員会・国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所

調査区⑥-⑦間 断ち割り地点断面写真 (裏面の平面図参照)

この堤防では
土の山と一部
砂の山が使われて
いたんだね!



検出された土山の写真



調査区⑥-⑦間 断ち割り地点断面図

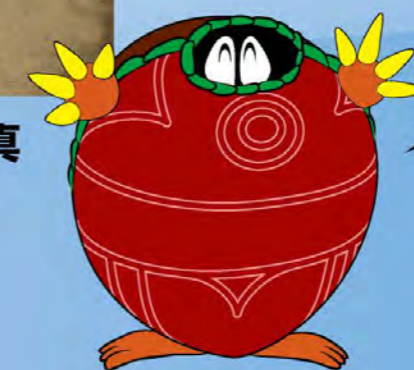


砂の山を芯とした堤防断面写真
(平成26年度調査地点)

築堤以前の遺構

洪水による砂層

この堤防は水害から
みんなを守るために
つくられたんだね!



堤防跡の中心部分を縦に断ち割ることで、最も古い時期の堤防に用いられた築堤法が明らかになりました。その工法とは堤防を築く地点に土山を縦列に盛り、土山と土山との間の谷に土を入れて、形を整えるというものです。

平成26年度に調査を行った地点(右の写真)では砂の山が、平成27年度調査地点(上の写真)では土の山が、それぞれ芯に用いられていました。砂山と土山をどのように組み合わせて堤防を築いたかは「謎」でしたが、土山を単位ごとに連ねる方法が明らかになったことによって、その一部に砂が使われていたことが判明しました。そのため、部分的に土山を芯とした場所と、砂山を芯とした場所があったと考えることができます。

また、堤防跡のすぐ下には洪水に関わると考えられる砂が広がっている部分があり、かつてこの土地が水害に悩まされたことを物語っています。そのような状況の中で、堤防を築いたことはまさに災害復旧工事であったといえるでしょう。当時の人々はこの堤防を見て「これで安心!」と思えたのではないのでしょうか。